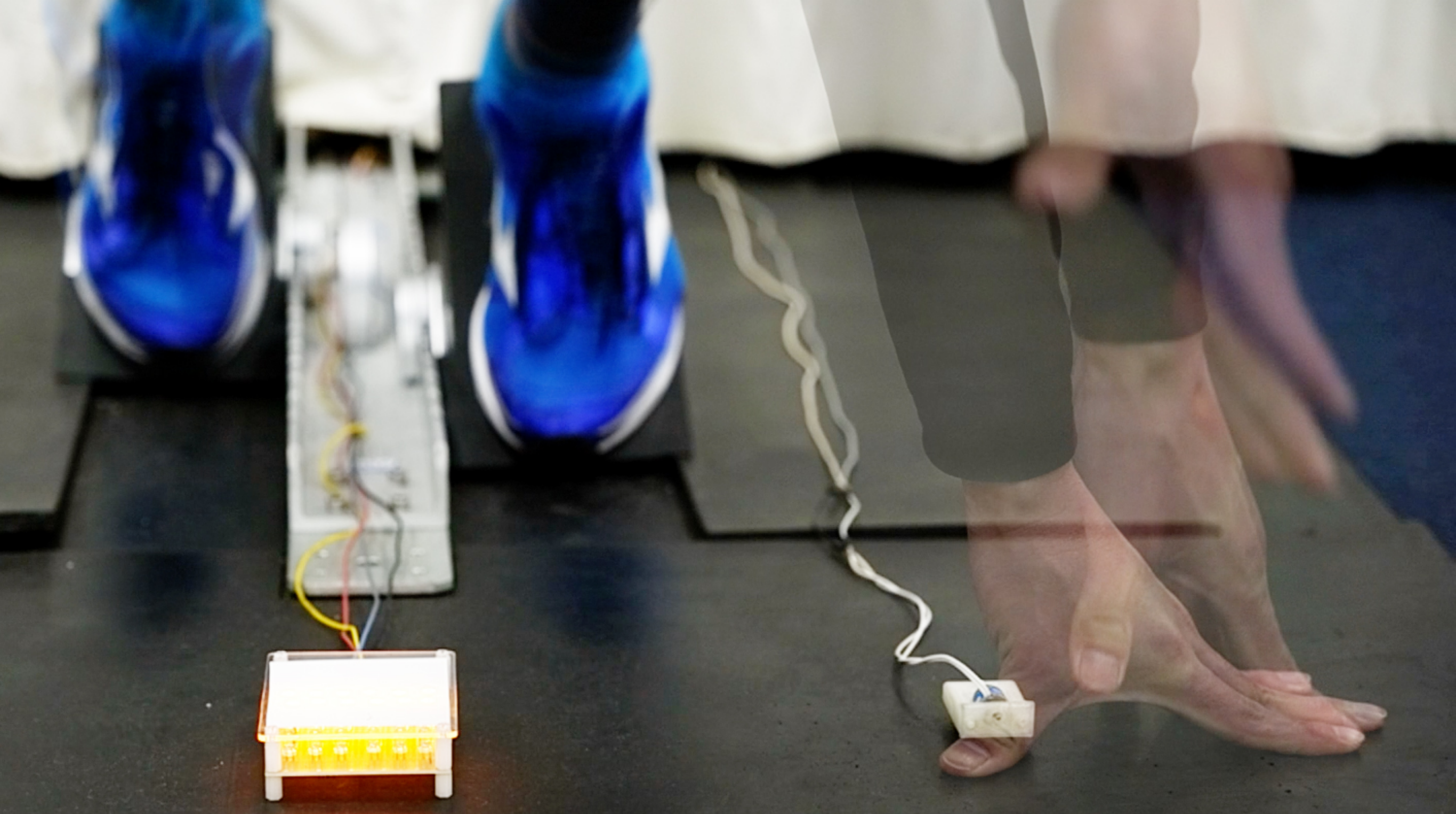




筑波大学大学院 図書館情報メディア研究科 博士後期課程
筑波技術大学 白石研究室 客員研究員

設楽 明寿

設楽 明寿 したら あきひさ



- 先天性ろう（混合性難聴）
- ろう文化や手話は大学入学から
- 陸上競技歴13年（小5～修士2）
- 筑波技術大学大学院 技術科学研究科
産業技術学専攻 修了（工学）
- 金メダリスト（4×100m Relayメンバー）
in the 2017 Deaflympics in Samsun

*Deaflympics 聴覚障害者のためのオリンピック

- IBM Access Blue Program 2016 修了



【プレスリリース】29日の競技結果・写真,
第23回夏季デフリンピック競技大会 サムスン2017,
全日本ろうあ連盟スポーツ委員会,
<https://www.jfd.or.jp/sc/samsun2017/arc/2431>

主著の論文発表

国際学会での発表：2件

国内学会での発表：4件

(AAC研究会：3件)

国際学会での発表：2件

CSUN

ASSISTIVE TECHNOLOGY CONFERENCE



The 7th International Conference  Universal Design in Bangkok 2019

第7回 国際ユニヴァーサルデザイン会議 2019  バンコク

CSUN

ASSISTIVE TECHNOLOGY CONFERENCE



ASL (アメリカ手話)



英語

- 公用語が英語だから、ASL or IS (国際手話) にすべき？
- 要望したら速やかに了諾してくれた
- ASLの確認に付き合ってくれた



The 7th International Conference  Universal Design in Bangkok 2019

第7回 国際ユニヴァーサルデザイン会議 2019  バンコク

JSL (日本手話)  日本語  英語

- 公用語が英語だから、ASL or IS (国際手話) にすべき？
- 要望したが、内容に関して少々交渉していた
- 打ち合わせでの確認に手間取っていた

目標の1つ：ASSETS&TACCESS

ASSETS : ACM SIGACCESS Conference on Computers and Accessibility

TACCESS : ACM Transactions on Accessible Computing

好機が"やってくる"

ASSETS 2020

26th to 28th October
Online Event

- 共著のポスター採択

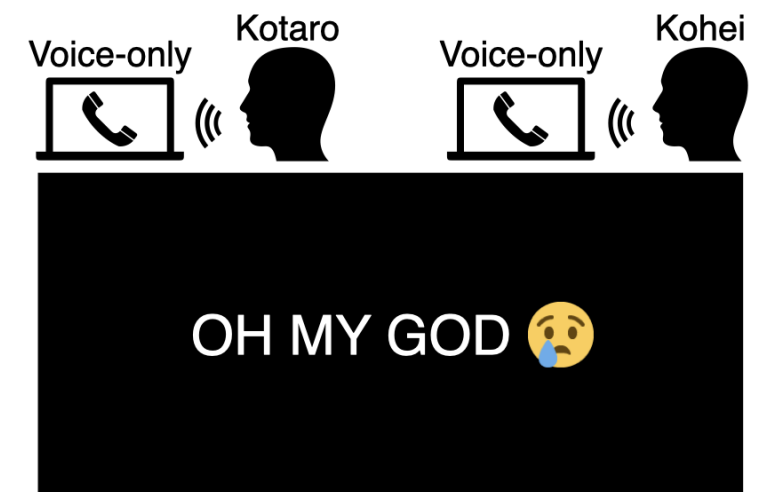
A Preliminary Study on Understanding Voice-only Online Meetings
Using Emoji-based Captioning for Deaf or Hard of Hearing Users

- コロナによるオンライン開催

- SIGACCESS

Diversity and Inclusion Scholarship

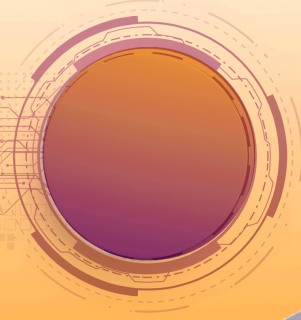
Voice-only Online Meetings



DHH User's Screen

How can it assist DHH people??

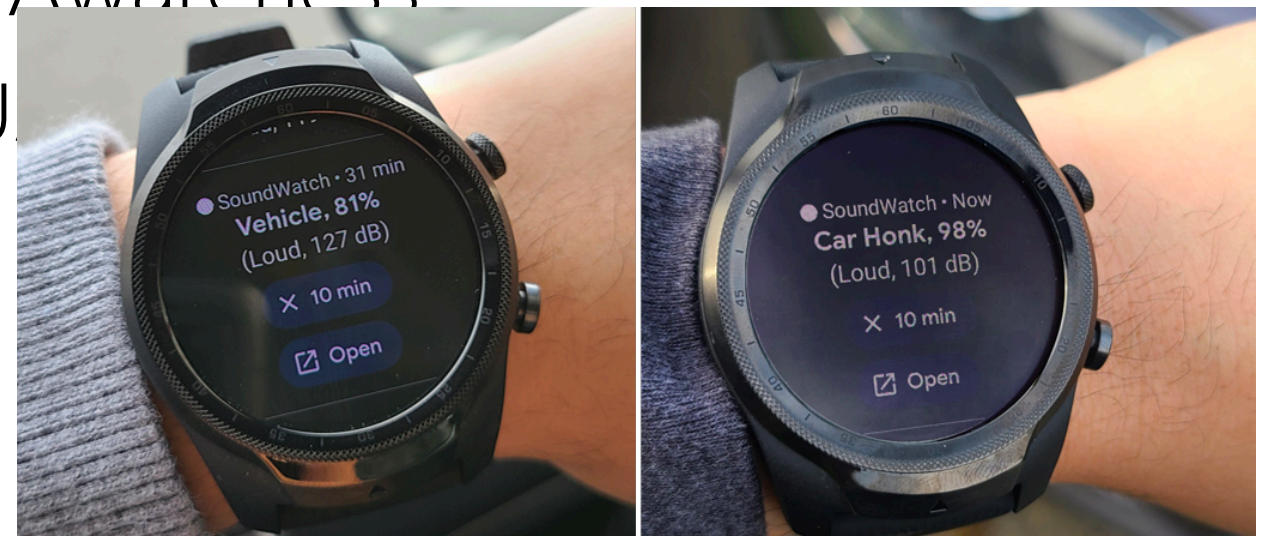
参加費用が実質無料？



HOMESOUND: I AM CSE, By Paul G. Allen School of CSE, 28 Feb, 2020,
<https://homes.cs.washington.edu/~djain/>

- Doctoral Consortiumセッション
- Dhruv Jain氏（難聴）の発表

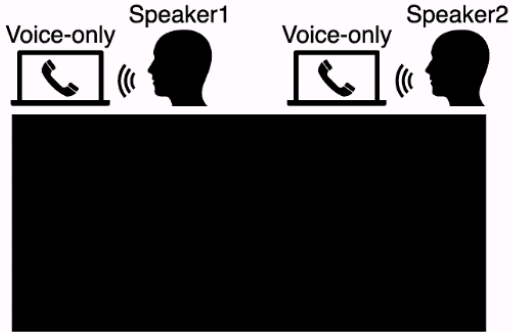
1. Navigating Graduate School with a Disability: A Trio-Ethnography
2. SoundWatch: Exploring Smartwatch-based Deep Learning Approaches to Support Sound Awareness for Deaf and Hard of Hearing U



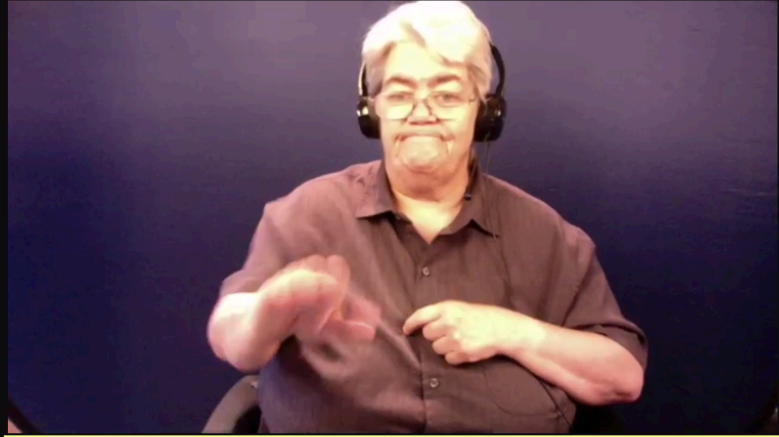
Background

(a) In voice-only online meetings, DHH people **cannot perceive facial expressions to catch affective states** of other speakers.

(b) There are many situations where people **do not want to turn on their videos** (messy room background, no makeup, etc.)



DHH User's Screen (Online Meeting Services)



In voice only online meetings, people cannot perceive facial expressions to catch effective states of

zoom



- 左右モードにして，話者と手話通訳が表示されるように
(要望でBSLも可能らしい)
- Discordでアナウンスや質疑応答
(最初はSlackでも良いでは？ → 視覚障害者への配慮？ <ボイス配信対応>)



ASSETS 2020

26th to 28th October
Online Event

だが、時差だけでは勝てなかった…….

国内コミュニティによる「エンカレッジ」の難しさ

- 「国際的には評価されていない研究の価値を、国内コミュニティが適切に評価して後押しする」ことは現実に起こり得るのか？
 - ▶ 読者の数が多ければ多いほど、研究の価値が「発掘」される可能性は単純に大きくなるはず
 - ▶ 国内の方が読者の質が高いということはあるか？
- 仮に起こり得たとして、本人が英語で発表する以外にどのような「後押し」ができるか？
 - ▶ 日本語でしか発表されていない日本人の関連研究は英語論文執筆時に引用できない問題
 - ▶ 引用できない論文・研究は存在していないのと同じ

菅野裕介（阪大），

「海外の事例から見た研究の進め方と国内コミュニティ」第1回目の議論 2017年10月研究会（熊本大学），

電子情報通信学会 パターン認識・メディア理解研究会（PRMU研究会），

https://www.ieice.org/iss/prmu/jpn/pdf/PRMU201710_Sugano.pdf

個人的な考え（意見）

- 気楽に情報収集・意見交換
- 勉強会の開催（ASSETSやCSUNとか）
- Slackとかを用いたコミュニティの構築
例）触覚若手の会
- フィールド調査などの根拠作成も重要
例）市場/現場調査，フィールドワーク，オートエスノグラフィー
- 文化人類学や社会学を専門とする人の巻き込みが必要かどうか
- 最終的には英語で論文を出していくべきでは？
社会背景などが違ったとしても，過程を参考できるようになる